

第一節 長崎医科大学の設立

大正九年より既に長崎医学専門学校の医科大学昇格が決定したが、それは文部省の通牒によつて大学配置の地理的關係により、大正十一年度に昇格すべきものであったのを、十二年度に延期されたこととなった。然し、昇格に対する準備は長崎県及び本校との連絡のもとに文部省との間に交渉が重ねられていた。元来、大正十一年三月三十一日、勅令第百四十三号、官立医科大学官制に基づく本学の設立については、長崎県知事渡辺勝三郎は文部次官南弘に宛て、大正十年（一九二一年）一月二十五日に長崎病院を政府に移管する旨を申出たのであるが、三月二日投函、五日受、長崎県知事渡辺勝三郎宛、文部次官南弘書簡はその返事である。

拝啓本年一月二十五日御書翰ヲ以テ長崎医学専門学校昇格ニ伴ヒ病院改築費トシテ貴県ヨリ三拾萬円ヲ支出シ病院ヲ政府ニ移管之件ニ付キ御申越之趣拝承種々御配慮之段感謝之至リ

第九章 長崎医科大学

ニ御座候何卒右趣旨ニテ御取運ノ程願上候唯政府トシテ病院移管ノ時期並ニ右寄附金ヲ病院改築費トシテ使用ノ時期ハ年残念十一年度始ヨリトスル外無之ト存候其次第ハ若シ十年度ヨリ実行セントセハ追加予算トシテ当議會ニ之ヲ提出スルノ必要アルモ今日ニ於テハ時日關係上困難ノ事ニテ不得已義ニ有之候間此義不惡御了承致下度候

尚右寄附金ニ付テハ既定予算ニ計上セル長崎医科大学創立費以外ニ特ニ病院改築ノ為メ寄附セラル、趣旨ヲ明瞭ニ御記載被下候ハ、好都合ニ有之候先ハ御挨拶旁々右御回答迄如斯ニ御座候

大正十年三月二日

渡辺知事殿

南 弘

敬 具

このような交渉のあった大正十年はわが国の前途を決定すべき国際問題が起つていたが、衛生行政については四月八日の水道条例の改正、地方委任の規定の追加、同月九日の黄燐燐寸製造禁止法の公布、同月十日には家畜伝染病予防法の制定が行われた。又、翌十一日には伝染

第一節 長崎医科大学の設立

病予防法の一部改正がなされ、法定伝染病にパラチフス、流行性脳背髄膜炎が追加され、コレラ、ペストの疑似症に対する就業制限、昆虫の駆除について規定され、四月二十二日には健康保険法の公布をみた。六月三日の司法省官制の改正（監獄衛生官制度の採用）、七月の衛生局改組（予防、調査の二課新設）などが行なわれていたが、八月、軍人傷痍記章所持者及びその付添人の鉄道優待が決り、国際連盟の帝國事務局が設置された後、十二月にはワシントン会議において日英米仏四国協定の成立があり、日英同盟を廃棄するに至った。又、十一月一日には内務省外局として社会局が新設され、十二日には庁府県衛生職員制が制定されたのである。本学では特記すべき行事も改変もみられず、一途に医科大学へ昇格すべき準備がなされていたのである。

これより先、大正八年より十一年にかけて行なわれた在外留学は學術振興を目的とするものではあるが、又、医科大学へ昇格すべき学問的な準備であったとも考えられるので、次に一括して留学した教授について記してお

こう。

大正八年六月二十一日、教授小室要は、耳鼻咽喉科学研究のため滿二ヶ年間、米國、英國、フランスへ、教授笹川正男は皮膚病学、微毒学研究のため米國、英國、フランス、スイスへ留学を命ぜられ、九月六日、小室要は願によりスイス留学を追加された。

大正九年十月二十日、教授磯部喜右衛門は外科学研究のため滿二ヶ年間、英・仏・独三国へ留学し、大正十年七月二十三日、教授斎藤秀雄は小兒科学研究のため独・仏・米の三国へ留学した。又、同年八月十一日、教授国友鼎は支那及び滿洲へ出張を命ぜられている。

一方、大正十一年（一九二二年）二月一日、ワシントンにおいて日米英仏伊五ヶ國の海軍々縮条約が調印され、二月には人口動態調査会が公布されて、国勢調査の実践が行われるようになった。さて、三月三十一日、本校では従来の第五高等中学校以来、變動しなかった本校規則第八章習学寮に関する規程及び同細則を削除し、習学寮を閉鎖した。同日、勅令第百四十二号及び勅令第百四十

三号の制定があり、大きな制度上の変化が与えられたのである。即ち勅令第百四十二号を以て、文部省直轄学校官制中、改正し、本校に附属医院を置かれた。よって、本校規則中、第十三章を追加し、附属医院規則を設けたのである。この附属医院規則、即ち長崎医学専門学校規則の第十三章をここに掲げておこう。

第十三章 附属医院規則

第一節 通 則

第一条 本院ハ学用患者及一般患者ヲ診療スル所トス

第二条 本院ニ左ノ諸科部ヲ置ク

内 科
外 科
産科婦人科
小 児 科
眼 科
皮膚科泌尿器科
耳鼻咽喉科
精 神 科
物理的療法科
薬 局
事 務 局

第九章 長崎医科大学

但シ一科目ヲ分割スルコトヲ得

第三条 患者ヲ分チテ甲種学用患者乙種学用患者及普通患者ノ三種トシ更ニ之ヲ通院入院ニ區別ス

但シ学用患者ハ人員ヲ制限ス

第四条 普通患者及乙種学用患者ニハ本院所定ノ料金ヲ徴取シ甲種学用患者ニハ之ヲ徴取セズ

但料金定率ハ別ニ之ヲ定ム

第五条 学用患者ハ実習生ノ予診ヲ拒ムコトヲ得ズ

第六条 本院ノ休日左ノ如シ

祝日、大祭日、日曜日、本校記念日

十二月二十九日より翌年一月三日ニ至ル期間

但休日ト雖当直員ヲシテ院務ヲ取扱ハシム

第七条 学用通院患者ハ本院休日ノ外尚左ノ期間診療セズ新

ニ入院ヲ許サズ

七月十一日より九月十日ニ至ル間

但シ此期間ハ時宜ニヨリ医院長之ヲ伸縮スルコトアルベシ

第八条 通院患者ノ受付時間左ノ如シ

四月一日ヨリ十月三十一日マデ

午前七時ヨリ午前十一時マデ

十一月一日ヨリ翌年三月三十一日マデ

午前八時ヨリ午前十二時マデ

但急病者ハ此限リニアラズ

第一節 長崎医科大学の設立

第九条 本院ニ助産婦及看護婦養成所ヲ設ケ其規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二節 職制

第十条 本院ニ左ノ職員ヲ置ク

医 院 長

医 局 長

事 務 長

医 務 員

調 剤 員

助 手

調 剤 手

事 務 員

技 術 員

守 衛 長

看護婦寄宿舎監

看護婦長

看護婦主任

第十一条 医院長ハ本校校長指揮ノ下ニ院務ヲ總理ス

第十二条 医院長ハ職員ヲ統督シ其進退ハ之ヲ学校長ニ具申ス

第十三条 各科ニ医長ヲ置キ当該科医務ヲ掌理シ所屬員ヲ監督セシム

但シ一科ニ医長二名ヲ置キ医務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十四条 薬局長ハ薬局ニ於ケル職務ヲ掌理シ所屬員ヲ監督

ス

第十五条 事務長ハ庶務會計ヲ掌理シ所屬員ヲ監督ス

第十六条 医員ハ医長ノ指揮ヲ受ケ当該科ノ医務ニ従事ス

第十七条 薬局員ハ薬局長ノ指揮ヲ受ケ調剤製薬其他薬局ニ於ケル職務ニ従事ス

第十八条 助手ハ医長及医員ノ指揮ヲ受ケ当該科ノ医務ニ従事ス

第十九条 事務員ハ事務長ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ノ事務ニ従事ス

フ

第二十条 調剤手ハ薬局長及局員ノ指揮ヲ受ケ製薬及調剤其他薬局ニ於ケル職務ニ従事ス

第二十一条 技術員ハ医長薬局長又ハ事務長ノ指揮ヲ受ケ專門ノ技術ニ従事ス

第二十二条 守衛長ハ事務長ノ指揮ヲ受ケ守衛ニ任務ヲ課シ之ヲ監督シ院内ノ衛生警備風紀等ニ関スル事務ニ従フ

第二十三条 看護婦寄宿舎監ハ看護婦養成所長又ハ事務長ノ指揮ヲ受ケ寄宿舎ノ取締ニ任ジ且寄宿舎ニ関スル事務ニ服ス

第二十四条 看護婦長ハ医院長又ハ事務長ノ指揮ヲ受ケ看護婦助産婦及生徒ノ勤務ヲ監督シ且病室診察室手術室等ノ秩序整頓等視スルモノトス

第二十五条 看護婦主任ハ医長事務長医員助手及看護婦長ノ指揮ヲ受ケ所屬看護婦助産婦生徒附添人等ヲ監督シ且患者ニ対スル諸般ノ取扱上ニ関スル事務ニ従フモノトス

ニ

第三節 諸料金規程

第二十六条 本院ハ診療ヲ受クル者ヨリ左ノ定率ニ從ヒ料金ヲ徴收ス但乙種學用患者ニ限リ入院料トシテ三等入院料ノ半額ヲ徴收シ其他ノ料金ハ之ヲ免除ス

一、診察料 金五拾錢 有効期間滿一ヶ月

一、診斷書料 金五拾錢以上五拾円以下

一、処方箋料 金貳円以上五円以下

一、証明書料 金壹円以上

一、体格検査料 金壹円以上

一、死体検按料 金五円以上

一、手術料 金壹円以上百五拾円以下

一、処置料 金拾錢以上五拾円以下

第二十七条 入院料左ノ如シ

一等 一日 金參円五拾錢

二等 一日 金貳円貳拾錢

三等 一日 金壹円五拾錢

入院料ニハ賄料其他ノ諸料金ヲ包含セズ

但シ普通藥ハ劑迄無料トス

入退院當日ハ時間ニ拘ハラズ一日ヲ以テ計算ス

第二十八条 藥価左ノ如シ

内服藥一種 一日分 金參拾錢以上六拾錢以下

頓服藥 一回分 金貳拾錢以上五拾錢以下

外用藥 金貳拾錢以上五拾錢以下

第九章 長崎医科大学

但シ高價藥、特種營養品、其他容器、繃帶、綿、油紙、ガーゼ等ノ類ハ適宜相當代価ヲ徴收スルモノトス

第二十九条 賄料左ノ如シ

特等 一日分 金參円

一等 一日分 金壹円

二等 一日分 金八拾錢

三等 一日分 金五拾錢

流動食及半流動食ハ三等料金ヲ徴收ス

但定量以外ニ要スル牛乳鶏卵其他滋養品代又ハ特別高價ナル物ニ對シテハ適宜相當ノ代価ヲ徴收スルモノトス

第三十条 諸料金ハ總テ之ヲ前納トス

但入院患者ニハ別ニ徴收日ヲ定メテ之ヲ納付セシム

又、同日、勅令第一四三号、官立医科大学官制の公布

があり、本学はその官制に従うこととなったのである。

四月一日、元県立長崎病院の所有に係る敷地建物及び

器具機械その他一切の設備を長崎県より国に寄附し、こ

れを本校に交附された。よって、同日より本校附属医院

と改称して一般診療に従事した。又、この日、本校教授

清水由隆は附属医院長を命ぜられた。同月十五日、勅令

第二〇四号を以て、文部省直轄学校職員定員令中、書記

第一節 長崎医科大学の設立

の項を改正された。

六月十三日、教授望月成人は整形外科学研究のためドイツ・米英三国に留学することとなったが、帰朝後も整形外科学の講座は開かれなかった。又、同日、教授浅沼武夫も眼科学研究のため望月教授と同じく三国へ留学を命ぜられた。そして十四日には教授菅沼清次郎もドイツ・フランス及びデンマークへ内科学研究のため留学を命ぜられた。このような在外留学は前年に引続いて行われており、磯部喜右衛門は十一月二十日に在留期間を短縮し、十二月二十三日には米国へ渡るよう命ぜられた。

大正十二年（一九二三年）は三月十七日の医師法の第四次改正及び日本医師会の設置があり、四月一日、廃病院官制が公布されて、関係事務は社会局に移された。又、六月一日には社会局に健康保険部が設けられ、健康保険法施行令の作成をなしたのである。六月三十日の精神病院法施行令の公布などがあり、九月一日には関東大震災があつて、東京を始め、各地に大火災が起り、甚大な被害を受けたのであるが、十一月には法定日本医師会の設

立があり、大日本医師会が解散された。同年には又、日本結核病学会の発会もあつて、多事多端の中にも、漸次旧来の風習に対する改革が行われて行った。

本学では三月、薬学教室の改築が竣工し、同月三十日、勅令第九十三号を以て官立大学官制中、第一条に於て「千葉医科大学」「金沢医科大学」及び「長崎医科大学」を加え、又、第十九条に於て、新潟医科大学及び岡山医科大学に附属医学専門部を置き、千葉医科大学、金沢医科大学及び長崎医科大学に附属医学専門部を置き、千葉医科大学及び長崎医科大学に附属医学専門学校及び附属薬学専門部を置く」と改正された。同月同日、勅令第九十四号を以て、文部省直轄諸学校官制及び勅令第九十五号を以て、文部省直轄諸学校職員定員令が改正された、同月同日、勅令第九十四号を以て、文部省直轄諸学校官制及び勅令第九十五号を以て、文部省直轄諸学校職員定員令が改正された。翌三十一日に至り、長崎医学専門学校は廃止され、四月一日、長崎医科大学が開設された。附属医院及び附属医学専門部、附属薬学専門部をこれに併

置し、職員の定員を定め、同日、医学博士山田基は長崎医科大学長兼教授に任ぜられ、附属医学専門部主事に補せられた。そして、教授以下、職員の任命があり、同時に教授清水由隆は附属医院長に、教授林郁彦は学生監に、又、附属薬学専門部教授加藤静雄は薬学専門部主事に補せられた。同日、長崎医科大学々則を制定し、長崎医科大学副手規程、長崎医科大学研究科規程及び長崎医科大学学位規程の許可があった。後者は大正九年七月五日の勅令第二〇〇号、学位令に基くものであった。

更に、同日、長崎医科大学奨学資金規程及び同資金取扱細則も制定されている。当時の奨学資金は、吉田健康の明治四十年四月一日寄附の吉田奨学資金、明治四十四年一月二十五日寄附の大谷奨学資金（代表雨森一郎）、大正五年十月十五日寄附の田中奨学資金（寄附者教授田中民夫）などがあった。

次に長崎医科大学学則と長崎医科大学附属医院規程及び附属薬学専門部規則を掲げることにするが、附属医院規程のみはその後改変されることなく、他の二者はしば

しば改正されている。今、昭和十七年の「長崎医科大学一覽」によって、それらを示そう。なお、長崎医科大学処務規定が制定され、長崎医科大学附属図書館規定が許可されたのも大正十二年四月一日である。又、本学附属医院規程及び附属医院処務規程並びに長崎医科大学附属医院産婆看護婦養成所規則も制定された。この養成所では産婆科を三年、看護婦科を二年の就学年限とし、高等小学校卒業又は同等以上の学力を有するものとした。

長崎医科大学学則（大正十二年四月一日許可）

改正

大正十二年六月	同十四年三月
昭和二年三月	同四年五月
同六年九月	同七年四月
同十年一月	同十三年三月
同十四年一月	同十四年二月
同十五年一月	同十六年三月

第一章 学年学期及休業

第一条 本学ノ修業期間ヲ四ケ年トス

第二条 学年ハ四月一日ニ始リ、翌年三月三十一日ニ終ル

第三条 学年ヲ分チテ左ノ三学期トス

第一学期 四月一日ヨリ八月三十一日マデ

第二学期 九月一日ヨリ十二月三十一日マデ

第三学期 一月一日ヨリ三月三十一日マデ

第一節 長崎医科大学の設立

第四条 定期休業ハ左ノ如シ

日曜日、祭日、祝日

春季休業 四月一日ヨリ四月七日マデ

夏季休業 七月十一日ヨリ九月十日マデ

冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マデ

長崎医科大学記念日 十一月十二日

第二章 授業学科目

第五条 本学ニ於テ授業スル科目及時数左ノ如シ 但教授上特別ノ必要アルトキハ變更スルコトヲ得（表ハ便宜末尾ニ記載）

第三章 入学、退学、休学、転学及除籍

第六条 入学ハ学年ノ始メニ於テス

第七条 本学ニ入学ヲ許可スヘキ者左ノ如シ

但、入学志願者ノ数収容予定数ヲ超過シタルトキハ高等学校校高等科中ノ科目ニ就キ選抜試験ヲ行ヒ入学者ヲ定ム

一、高等学校高等科理科卒業者

二、大正十一年以後学習院高等科理科ヲ卒業シタル者

三、旧高等学校令ニ依ル高等学校大学予科第二部又ハ第三

部ヲ卒業シタル者

第八条 前条ノ入学志願者ヲ収容シ猶缺員アル場合ニ於テハ左ノ資格者ニ限り詮衡ノ上入学ヲ許可スルコトアルヘシ

一、高等学校高等科文科並大正十一年以後学習院高等科文科卒業者

二、大学令ニ依ル医科大学ノ附属大学予科修了者
三、本学ニ於テ試験ヲ行ヒ高等学校高等科ヲ卒ヘタル者ト同等以上ノ学力アリト認メタル者

但試験ハ之ヲ高等学校ニ委託スルコトアルヘシ

四、帝国大学ニ於テ試験ニ合格シ学士ト称スルコトヲ得タル者

五、文部大臣ニ於テ高等学校ト同等以上ト認メタル学校ノ卒業者

六 専門学校令ニ依ル医学専門学校医学科卒業者

第九条 本学々生ニシテ退学シタル者再ヒ入学ヲ請フトキハ缺員アル場合ニ限り許可スルコトアルヘシ

第十条 帝国大学医学部学生及大学令ニ依ル医科大学々生ニシテ本学ニ転学ヲ望ム者ハ缺員アル場合ニ限り許可スルコトアルヘシ

第十一条 入学志願者ハ二月十五日迄ニ（第七条ニ依ル入学志願者ハ其出身学校ヲ經由シテ）願書ニ履歷書、身体検査証及修業又ハ卒業証明書を添付シ学長ニ願出スヘシ

但前項ノ期限後ト雖モ尚缺員アル場合ニ於テハ四月五日迄願書ヲ受理スルコトアルヘシ（参考 願書、身体検査証ノ用紙ハ本学ニ於テ交付ス）

第十二条 入学志願者ニ対シテハ入学許可ニ先チ身体検査ヲ行フ

第十三条 入学許可ヲ得タル者ハ宣誓ヲ為シ学生名簿ニ署名

シ且ツ保証人連署ノ在学証明書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ学長宛差
出スヘシ故ナクシテ宣誓ヲ為サル者ニ対シテハ入学ノ許
可ヲ取消ス

第十四条 保証人ハ父兄トシ父兄ナキ者ハ内地ニ居住スル成
年ノ男子ニシテ学長ニ於テ適當ト認メタル者ニ限ル保証人
ハ在学中ニ関スル一切ノ事件ニ付其責任ニ任スヘキモノト
ス

第十五条 保証人死亡シタルトキハ更ニ第十四条ノ手續ヲ經
ヘシ

第十六条 学生疾病又ハ事故ニヨリ二ヶ月以上修学ヲ中止セ
ントスル時ハ其理由ヲ具シテ学長ニ休学ヲ願出スヘシ

第十七条 休学ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス 但特別ノ事情アル
者ニハ更ニ一年以内ノ休学ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八条 休学者復学セントスルトキハ本学ニ於テ健康診断
ノ上許可ス

第十九条 学生退学セントスルトキハ其旨願出テ学長ノ許可
ヲ受クヘシ

第二十条 転学セント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シ学長ノ許可
ヲ受クヘシ

第二十一条 在学八年ニ及ヒテ猶卒業セサル者ハ之ヲ除籍ス
但休学期間ヲ算出セス

第二十二条 前条ノ期間内ト雖モ疾病其他ノ事故ニ依リ成業
ノ見込ナシト認メタルトキハ退学ヲ命スルコトアルヘシ

第九章 長崎医科大学

第四章 試験及卒業

第二十三条 大学令第十条ニ依ル試験ハ講義及実習修了後次
ノ学科ニ就テ施行ス

解剖学	内科学	皮膚科泌尿器科学
生理学	外科学	耳鼻咽喉科学
生化学	産科婦人科学	衛生学
細菌学	眼科学	法医学
病理学	精神病学	
薬理学	小兒科学	

第二十四条 各科目ニ付規定ノ期間聴講シ且ツ実習ヲ修了シ
タル者ニアラサレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五条 試験ハ各科目各一定時期ニ於テ之ヲ施行ス
試験科目及期日ノ細目ハ別ニ之ヲ定ム

第二十五条ノ二 疾病又ハ事故ニ因リ当該試験期日ニ出席ス
ルコト能ハサル者ハ願出ニ依リ次学期一定ノ期日ニ於テ遅
延受験スルコトヲ得

但卒業試験ニ限リ第二学期ニモ受験スルコトヲ得

第二十六条 試験成績ハ百点満点ヲ以テ之ヲ採点ス

第二十七条 学年ノ進級ハ学年末ニ於テス各学年進級及卒業
ハ学年末教授会ニ於テ全学科ニ亘リテ成績ヲ考查シ之ヲ決
定ス

第二十七条ノ二 受験欠席ノ為学年末迄ニ規定ノ受験ヲ完了
セサル者ハ教授会ニ於ケル前条ノ考查ヲ受クルコトヲ得ス

第一節 長崎医科大学の設立

但第二十五条ノニ依リ遅延受験シ四月中ニ之ヲ完了セ
ルトキハ学年進級ノ考查ヲ、又卒業受験ニ在リテハ受験
完了セルトキ卒業ノ考查ヲ受クルコトヲ得

第二十八条 進級又ハ卒業ノ考查ニ於テ不合格トナリタル者

ハ再ヒ原学年ノ規定学修及試験ノ全部ヲ受クルコトヲ要ス

第二十九条 四学年以上在学シ教授会ニ於テ考查ノ結果卒業

ノ決定ヲ受ケタル者ヲ卒業者トシ之ニ卒業証書ヲ授与ス

第三十条 卒業者ハ医学士ト称スルコトヲ得

第五章 選習生

第三十一条 本学第二学年以上ノ学生ハ希望ニヨリ選習生ト

シテ自己ノ研究セント欲スル問題ニ就キ攻究スルコトヲ得

第三十二条 選習生タラント欲スル者ハ其問題ヲ定メ学長宛

願出ツヘシ学長ハ教授会ノ評議ヲ経テ其所属ノ教室ト指導

者トヲ定ム

第三十三条 選習生ノ研究ニ要スル費用ハ場合ニ依リ之ヲ徴

収スルコトアルヘシ

第三十四条 選習生ハ卒業前ニ其研究成績ヲ論文トシテ学長

ニ提出スヘシ

第六章 試験手数料、入学科及授業料

第三十五条 入学志願者ハ出願ト同時ニ検定料トシテ金拾円

ヲ納付スヘシ 但第九条及第十条ニ依リ者ハ此ノ限ニ在ラ

ス
〔第三十五条ノ二 第八条第三号ノ学力検定試験ヲ要スル者

ハ受験料拾円ヲ納スヘシ〕

第三十六条 入学ヲ許可セラレタル者ハ入学科トシテ金 円

ヲ納付スヘシ 第九条ニ依リ再ヒ入学セラレタル者及第十

条ニ依リ転学ヲ許可セラレタル者亦前項ニ準ス

第三十七条 学生ノ授業料ハ一学年金 円トシ学期毎ニ各

円ヲ分納セシム 但納付期日ハ別ニ之ヲ定ム

第三十八条 転学シ退学シ除籍セラレ又ハ退学ヲ命ゼラレタ

ル者ハ其期ノ授業料ヲ徴収ス 停学ニ処セラレタル者ハ停

学中ト雖モ授業料ヲ徴収ス

第三十九条 一学期或ハ一学年ヲ通シテ休学ヲ許可セラレタ

ル者ハ其ノ学期或ハ学年ノ授業料ヲ免除ス 但休学者ニシ

テ中途復学シタルトキハ其学期ヨリ之ヲ徴収ス

第四十条 既納ノ料金ハ如何ナル理由アルモ之ヲ返付セス

第四十一条 授業料納付ノ義務ヲ怠ル者ハ講義実習ニ出席シ

及図書ヲ閲覧スルヲ禁止シ其情状ニ依リテ除籍スルコトア

第七章 懲 戒

第四十二条 学生ニシテ其本分ヲ悖リタル行為アリタルトキ

ハ之ヲ懲戒ニ処ス

懲戒ハ左ノ如シ

戒飭、停学、除籍、放学

第八章 外国学生

第四十三条 外国人ニシテ本学ニ入学セントスル者アルトキ

ハ明治三十四年文部省令第十五号ノ定ムル所ニヨリ之ヲ許可ス

第四十四条 外国学生ニシテ本学所定ノ試験ニ合格シタル者ハ本人ノ願ニヨリ高等学校高等科理科卒業ノ学力試験ヲ行ヒ之ト同等以上ト認メタルトキハ卒業証書ヲ授与スルコトヲ得

第四十五条 外国人ニシテ高等学校高等科理科卒業程度ノ試験ニ合格シタル者ハ普通学生トシテ入学ヲ許可ス

第四十六条 外国学生ニハ本学生ニ関スル規定ヲ準用ス

附 則

第四十七条 本規定ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十八条 第三十五条ノ改正規定ハ昭和十〔三〕年度入学

志願者ヨリ之ヲ適用ス

第四十九条 本改正規定ハ昭和十〔三〕年四月一日ヨリ之ヲ

施行ス

第五十条 本改正規定施行ノ際現ニ第二学年以上ニ在学スル

学生ニ対シテハ仍従前ノ規定ニヨリ又ハ本改正規定ヲ斟酌スルコトヲ得

第五十一条 第八条中改正規定ハ昭和十五年度入学志願者ヨリ之ヲ適用ス

本学則ハ大正十二年四月一日許可

大正十二年七月

同 十四年三月

昭和 二年三月

同 四年五月

同 六年九月

同 七年四月

同 十年一月

同 十三年三月

同 十四年一月

同 十四年二月

同 十五年一月

学科時間配当表

学 科 目	第 一 学 年			第 二 学 年			第 三 学 年			第 四 学 年			
	学期	一学期	二学期	三学期	一学期	二学期	三学期	一学期	二学期	三学期	一学期	二学期	三学期
系統解剖学		二		二		二		二		二		二	
組 織 学		三											

第九章 長崎医科大学

第一節 長崎医科大学の設立

薬理学		細菌学		生化学		生理学		解剖学			
処方学	薬理学実習	薬理学	細菌学実習	細菌学	生化学実習	生化学	生理学実習	生理学	局所解剖学	発生学	組織学実習
					三回 (三時宛間)	四回		四回			三回 (二時宛間)
					三回 (三時宛間)	半学期 二回		五回			三回 (三時宛間)
		四回		二回		二回		四回	二回		六回 (三時宛間)
				二回			二回 (三時宛間)		二回	二回	
	二回 (二時宛間)		三回 (三時宛間)	二回							

特別
講義

放射線学 栄養学 医学史 医事法制 社会医学 熱帯医学 予防医学 軍陣医学 人類学 遺伝学 心理学 運動医学 温泉治療学 物理的療法

計

四〇 四〇 三八 三九 四〇 三八半 四〇 四〇半 四〇 三七 三七

備考

△印ハ学生ヲ数組ニ分チ第三学年一学期迄六回二時間宛第三学年第三学期ヨリ第四学年二学期迄六回三時間宛ノ時間ヲ充当ス時間配当ナキ特別講義ハ必要ニ応シ随時之ヲ課ス

第一節 長崎医科大学の設立

学科時間配当表

△解剖学

系統解剖学

組織学

解剖学実習

解剖学標本示説

組織学実習

発生学

局所解剖学

△生理学

生理学

生理学実習

△生化学

医化学

医化学実習

△細菌学

細菌学

細菌学実習

△衛生学

衛生学

衛生学実習及見学

△薬理学

薬理学

薬理学実習

処方学

△病理学

病理総論

病理各論

病理組織学実習

病理標本示説

病理解剖学実習

△内科学

診断学

診断実習

内科学各論

内科臨床講義

内科外来臨床講義

△産婦人科

産科学

婦人科学

産科婦人科臨床講義

産科婦人科外来臨床講義

産科模型演習

婦人科手術見学

△眼科学

眼科学

眼科臨床講義

眼科外来臨床講義

検眼鏡実習

眼科手術見学

△小兒科学

小兒科学

小兒科臨床講義

小兒科外来臨床講義

△放射線学

種痘実習

外科各論

外科臨床講義

外科外来臨床講義

外科手術及綱帶実習

外科手術見学

△皮膚科泌尿器科学

皮膚科学

皮膚科泌尿器科臨床講義

皮膚科外来臨床講義

皮膚泌尿器科手術見学

泌尿器科学

△耳鼻咽喉科学

耳鼻咽喉科学

耳鼻咽喉科臨床講義

耳鼻咽喉科外来臨床講義

耳鼻咽喉科実習

耳鼻咽喉科手術見学

△精神病学

精神病学

精神病学臨床講義

精神病学外来臨床講義

(大正十二年四月一日制定)

第一条 附属医院ハ医学ノ教授及研究ノ目的ヲ以テ患者ノ診

察ヲ為ス所トス

第二条 患者ヲ分チテ入院患者及外来患者ノ二種トス

第三条 入院患者ハ官費及私費トス

但シ私費ヲ以テ治療ヲ受ケント欲スルモノモ其ノ症病ニ

ヨリテハ之ヲ許可セサルコトアルヘシ

第四条 外来患者ノ費用ハ患者ノ自弁トス

但シ病症ニヨリ治療上一切ノ費用ヲ徴収セサルコトアル

シ
へ

第五條 本規程施行ニ関スル細目ハ學長之ヲ定ム

附
則

第六條 本規程ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

長崎医科大学附属薬学専門部規則

(大正十二年四月許可)

改正

昭昭昭昭昭昭大大
和和和和和和正正
十十 十十
四三十九八七五四年
年年年年年年年年
一三三十三四九三
月月月月月月月月

第一章 總則

第九章 長崎医科大学

第一条 本専門部ハ薬学ニ須要ナル學術ノ理論及応用ヲ教授

トス
シ兼テ人格ノ陶冶及国體觀念ノ養成ニ留意スルヲ以テ目的

第二条 修業年限ハ三ヶ年トス

第二章 学科課程

第三条 学科目及其ノ毎週授業時数ハ左表ノ如シ

學年	每週授業時數
第一學年	36
第二學年	36
第三學年	36
第四學年	36
第五學年	36
第六學年	36
第七學年	36
第八學年	36
第九學年	36
第十學年	36
第十一學年	36
第十二學年	36
第十三學年	36
第十四學年	36
第十五學年	36
第十六學年	36
第十七學年	36
第十八學年	36
第十九學年	36
第二十學年	36
第二十一學年	36
第二十二學年	36
第二十三學年	36
第二十四學年	36
第二十五學年	36
第二十六學年	36
第二十七學年	36
第二十八學年	36
第二十九學年	36
第三十學年	36
第三十一學年	36
第三十二學年	36
第三十三學年	36
第三十四學年	36
第三十五學年	36
第三十六學年	36
第三十七學年	36
第三十八學年	36
第三十九學年	36
第四十學年	36
第四十一學年	36
第四十二學年	36
第四十三學年	36
第四十四學年	36
第四十五學年	36
第四十六學年	36
第四十七學年	36
第四十八學年	36
第四十九學年	36
第五十學年	36
第五十一學年	36
第五十二學年	36
第五十三學年	36
第五十四學年	36
第五十五學年	36
第五十六學年	36
第五十七學年	36
第五十八學年	36
第五十九學年	36
第六十學年	36
第六十一學年	36
第六十二學年	36
第六十三學年	36
第六十四學年	36
第六十五學年	36
第六十六學年	36
第六十七學年	36
第六十八學年	36
第六十九學年	36
第七十學年	36
第七十一學年	36
第七十二學年	36
第七十三學年	36
第七十四學年	36
第七十五學年	36
第七十六學年	36
第七十七學年	36
第七十八學年	36
第七十九學年	36
第八十學年	36
第八十一學年	36
第八十二學年	36
第八十三學年	36
第八十四學年	36
第八十五學年	36
第八十六學年	36
第八十七學年	36
第八十八學年	36
第八十九學年	36
第九十學年	36
第九十一學年	36
第九十二學年	36
第九十三學年	36
第九十四學年	36
第九十五學年	36
第九十六學年	36
第九十七學年	36
第九十八學年	36
第九十九學年	36
第一百學年	36

学 科 目	第一学年	第二学年	第三学年
1. 普通心理学	16	16	16
2. 实验心理学	16	16	16
3. 心理统计学	16	16	16
4. 心理测量学	16	16	16
5. 发展心理学	16	16	16
6. 教育心理学	16	16	16
7. 变态心理学	16	16	16
8. 咨询心理学	16	16	16
9. 行为心理学	16	16	16
10. 心理语言学	16	16	16
11. 心理声学	16	16	16
12. 心理物理学	16	16	16
13. 心理生理学	16	16	16
14. 心理药理学	16	16	16
15. 心理免疫学	16	16	16
16. 心理神经免疫学	16	16	16
17. 心理神经内分泌学	16	16	16
18. 心理神经内分泌免疫学	16	16	16
19. 心理神经免疫学	16	16	16
20. 心理神经免疫学	16	16	16
21. 心理神经免疫学	16	16	16
22. 心理神经免疫学	16	16	16
23. 心理神经免疫学	16	16	16
24. 心理神经免疫学	16	16	16
25. 心理神经免疫学	16	16	16
26. 心理神经免疫学	16	16	16
27. 心理神经免疫学	16	16	16
28. 心理神经免疫学	16	16	16
29. 心理神经免疫学	16	16	16
30. 心理神经免疫学	16	16	16
31. 心理神经免疫学	16	16	16
32. 心理神经免疫学	16	16	16
33. 心理神经免疫学	16	16	16
34. 心理神经免疫学	16	16	16
35. 心理神经免疫学	16	16	16
36. 心理神经免疫学	16	16	16
37. 心理神经免疫学	16	16	16
38. 心理神经免疫学	16	16	16
39. 心理神经免疫学	16	16	16
40. 心理神经免疫学	16	16	16
41. 心理神经免疫学	16	16	16
42. 心理神经免疫学	16	16	16
43. 心理神经免疫学	16	16	16
44. 心理神经免疫学	16	16	16
45. 心理神经免疫学	16	16	16
46. 心理神经免疫学	16	16	16
47. 心理神经免疫学	16	16	16
48. 心理神经免疫学	16	16	16
49. 心理神经免疫学	16	16	16
50. 心理神经免疫学	16	16	16
51. 心理神经免疫学	16	16	16
52. 心理神经免疫学	16	16	16
53. 心理神经免疫学	16	16	16
54. 心理神经免疫学	16	16	16
55. 心理神经免疫学	16	16	16
56. 心理神经免疫学	16	16	16
57. 心理神经免疫学	16	16	16
58. 心理神经免疫学	16	16	16
59. 心理神经免疫学	16	16	16
60. 心理神经免疫学	16	16	16
61. 心理神经免疫学	16	16	16
62. 心理神经免疫学	16	16	16
63. 心理神经免疫学	16	16	16
64. 心理神经免疫学	16	16	16
65. 心理神经免疫学	16	16	16
66. 心理神经免疫学	16	16	16
67. 心理神经免疫学	16	16	16
68. 心理神经免疫学	16	16	16
69. 心理神经免疫学	16	16	16
70. 心理神经免疫学	16	16	16
71. 心理神经免疫学	16	16	16
72. 心理神经免疫学	16	16	16
73. 心理神经免疫学	16	16	16
74. 心理神经免疫学	16	16	16
75. 心理神经免疫学	16	16	16
76. 心理神经免疫学	16	16	16
77. 心理神经免疫学	16	16	16
78. 心理神经免疫学	16	16	16
79. 心理神经免疫学	16	16	16
80. 心理神经免疫学	16	16	16
81. 心理神经免疫学	16	16	16
82. 心理神经免疫学	16	16	16
83. 心理神经免疫学	16	16	16
84. 心理神经免疫学	16	16	16
85. 心理神经免疫学	16	16	16
86. 心理神经免疫学	16	16	16
87. 心理神经免疫学	16	16	16
88. 心理神经免疫学	16	16	16
89. 心理神经免疫学	16	16	16
90. 心理神经免疫学	16	16	16
91. 心理神经免疫学	16		

修身
——
倫理學
國民道徳

修身—倫理學

体操本教

体操

外国語
英 独
逸
語 語

羅甸語

有機化学

有機薬化学

有機藥品製造学

有機化學

有機藥化學
有機藥品製造學
實驗

玄 物 学

藥 金
用
直 生
物
學 學

藥用植物學

長崎医科大学記念日 十一月十二日

第四章 入学及在学

第八条 入学ハ毎学年ノ始トス

第九条 入学資格ハ左ノ各号ノ一ニ該当シ且身体検査ニ合格シタル男子タルヘシ

一、中学校卒業者

二、文部大臣ニ於テ一般ノ専門学校入学ニ関シ中学校卒業者ト同等以上ノ学力アリト指定シタル者

三、専門学校入学者検定規程ニ依リ試験検定ニ合格シタル者

第十条 入学志願者ハ本学所定ノ入学願書ニ自署捺印ノ上卒業証明書卒業見込証明書又ハ専門学校入学試験検定合格証明書及写真竝検定料金五円ヲ添ヘ募集期日内ニ願出ツヘシ但シ卒業見込証明書ヲ以テ願出テタル者ニシテ卒業シタル時ハ直ニ卒業証明書ヲ提出スヘシ

第十一条 入学志願者募集人員ヲ超過シタル時ハ中学校卒業ノ程度ニ依リ選抜試験ヲ行フ但シ予定人員及出願期日ハ募集ノ都度之ヲ定ム

第十二条 第二学年以上ニ入学セントスル者ハ第九条ノ資格ヲ備ヘ且前各学年ノ学科課程ヲ卒ヘタル者ト同等ノ学力ヲ有スル者ニシテ当該学年ノ既修学科目ニ就キ試験ヲ受ケンメ其ノ許可ヲ定ム但シ缺員アルトキニ限ル

第十三条 入学ヲ許可セラレタル者ハ入学科金參円ヲ納付シ

第九章 長崎医科大学

且保証人連署ノ在学証人連署ノ在学証書及戸籍謄本ヲ添ヘ学長宛差出スヘシ

第十四条 保証人ハ父兄トシ父兄ナキ者ハ内地ニ居住スル成年ノ男子ニシテ学長ニ於テ適當ト認メタル者ニ限ル

保証人ハ生徒在学中ニ関スル一切ノ事件ニ付其ノ責ニ任スヘキモノトス

第十五条 前条ノ手續ヲ了セサルトキハ入学許可ヲ取消ス

第十六条 既納ノ検定料及入学科ハ如何ナル理由アルモ還セス

第十七条 疾病又ハ事故ニ依リ缺席セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ直ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ疾病ニ依ル缺席日数七日以上ニ及フ時ハ医師ノ診断書ヲ添フヘシ

第五章 休学及退学

第十八条 兵役ニ服スル者ハ其ノ現役又ハ召集中休学ヲ許可ス

第十九条 疾病又ハ事故ニ依リ休学セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ学長ノ許可ヲ受クヘシ但シ疾病ニヨル休学ニハ医師ノ診断書ヲ添フヘシ

第二十条 休学ノ許可ヲ得タル者ニシテ其ノ事故止ミタル時ハ休学期間中ト雖許可ヲ得テ出席スルコトヲ得

第二十一条 生徒退学セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ保証人連署ノ上学長ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二条 退学セシ者再入学ヲ願フトキハ相当学年以下ニ

第一節 長崎医科大学の設立

詮議ノ上試験ヲ行ヒ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十三条 左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニハ旨ヲ諭シテ退学

セシム但シ本条ノ論旨ニ服セサル者ニハ退学ヲ命ス

一、学業不振又ハ身体虚弱ニシテ成業ノ見込ナキ者

二、二ケ年ヲ超ユルモ尚原級ニ止マル者

三、休学期間連続二ケ年ヲ超ユル者

第六章 懲 戒

第二十四条 規則及時々ノ示達ニ悖リ若ハ怠惰不行状等総テ

生徒ノ本分ヲ缺ク者ハ其ノ輕重ニ從ヒ戒飭 停学 退学及

放校ニ処ス

第二十五条 放校ノ処分ヲ受ケタル者ハ再入学ヲ許サス

第七章 学業成績及進級

第二十六条 学業成績ハ平素ノ学業及試験ニ依リ之ヲ定ム

第二十七条 試験ハ各学期末ニ之ヲ行フ

第二十八条 各学科目成績ノ評語ヲ甲乙丙丁戊ノ五種トシ其

ノ評点ハ左表ニ依ル

評 語 得 点

甲 一〇〇—八〇点

乙 七九—七〇点

丙 六九—六〇点

丁 五九—五〇点

戊 四九—以下

第二十九条 学年成績ハ各学期試験成績ノ平均ヲ以テ表シ左

ノ規定ニ依リ及落ヲ判定ス

一、全学科目悉ク丙以上ナルトキハ及第トス

二、二以上戊ノ成績ヲ得タル者ハ落第トス

三、丁以上カ全学科目總数ノ二分一ノ以下ニシテ總平均丙

以上ナルトキハ操行及勤惰ヲ考慮シテ進級セシムルコト

アルヘシ但シ前号ノ該当者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十条 疾病又ハ事故ニ依リ試験定日ニ出席シ難キトキハ

当日試験開始前迄ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ疾病ニ依ル者

ハ医師ノ診断書ヲ添ヘ事故ニ依ル者ハ其ノ事由ヲ詳記スヘ

シ

第三十一条 各学期ノ授業時数中授業ヲ受ケサルコト三分ノ

一以上ニ及フ学科目ニ就テハ其ノ学期ニ於ケル受験ヲ停止

ス但シ事情ニ依リテハ詮議ノ上受験セシムルコトアルヘシ

第三十二条 受験セサル学科目ニ就テハ他ノ学期該学科目試

験成績ノ三分ノ二以下ノ見込点ヲ与フ但シ第三十条ノ手続

ヲ了セサルトキハ該学科目ニ對シテハ見込点ヲ与ヘス

第三十三条 追試験ヲ必要トスル場合ハ詮議ノ上之ヲ行フコ

トアルヘシ

第三十四条 落第シタル者ハ原学年ノ全学科目ヲ履修セシム

第八章 卒業成績

第三十五条 卒業成績順位ハ全学科目ノ成績ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六条 第三学年ノ試験ニ及第シタル者ニハ卒業証書ヲ

授与ス

其ノ書式左ノ如シ(中略)

第三十七条 卒業生ハ長崎医科大学附屬薬学専門部薬学士ト

称スルコトヲ得

第三十八条 在学中品行方正ニシテ学業優秀ノ者又ハ精勤者

ニハ卒業ノ際賞品或ハ賞状ヲ授与スルコトアルヘシ

第九章 授業料及実習料

第三十九条 授業料ハ一学年金八拾円実習料ハ一学年金拾円

トシ左ノ三期ニ分納セシム授業料納付期日後ニ入学シタル者ハ入学許可ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ期ノ授業料及ヒ実習料ヲ納付スヘシ

金 額

区分	第一期	第二期	第三期
自	自四月一日	自九月一日	自一月一日
至	至八月卅一日	至十二月卅一日	至三月卅一日

授業料	貳拾七円	貳拾六円	貳拾七円
実習料	参 円	四 円	参 円

納付 四月十五日ヨリ 九月十五日ヨリ 一月十五日ヨリ
期日 四月廿五日マデ 九月廿五日マデ 一月廿五日マデ

第四十条 転学又ハ退学ヲ命セラレ或ハ放校ニ処セラレタル者ニ対シテハ其ノ期ノ授業料及ヒ実習料ヲ徴収ス 停学ニ処セラレタル者ニ対シテハ停学中ト雖授業料ヲ徴収ス

第四十一条 休学ヲ許可セラレタル者ニ対シテハ次期ヨリ授業料及実習料ヲ免除シ復学ノ期ヨリ之ヲ徴収ス

第四十二条 授業料及実習料ヲ指定期日内ニ納付セサル者ニ

対シテハ滞納中登学停止シ事情ニ依リテハ退学セシムルコトアルヘシ

第四十三条 既納ノ料金ハ如何ナル理由アルモ之ヲ還付セス

第十章 専攻生

第四十四条 本専門部卒業生ニシテ既修学科目ノ一ヲ選ヒ更ニ研究セントスル者ハ専攻生トシテ出願スルコトヲ得

第四十五条 専攻生ハ当該学学科目担任教官ノ意見ヲ徴シ本専門部主事之ヲ定ム

第四十六条 専攻生志願者ハ左ノ書式ノ専攻生願ヲ差出スヘシ但シ同一学科目ニ定員以上ノ志願者アルトキハ卒業成績ニ依リ順次許可スルモノトス

専攻生願

年度卒業生

右ノ者貴学附屬薬学専門部専攻生トシテ左記ノ通研究致度此段及御願候也

年月日

右何 某印

学長宛

専攻学科目 何年間

第四十七条 専攻生ハ研究料トシテ一ケ年金拾円ヲ納付スヘシ納付期日ハ別ニ之ヲ定ム、既納ノ料金ハ如何ナル理由ア

第一節 長崎医科大学の設立

ルモ之ヲ還付セス

第四十八條 專攻生ノ期限ハ二ケ年以内トス

第四十九條 專攻生ハ兵役法第四十一條ニ依ル徵集ノ期ヲ受

タルコトヲ得サルモノトス

第五十條 學長ハ專攻生ノ申請ニ依リ研究ノ學科目ニ對シ証

明書ヲ交付スルコトアルヘシ

第五十一條 專攻生ニシテ研究ノ目的ヲ達スル能ハスト認ム

ルトキハ之ニ退學ヲ命ス

第五十二條 專攻生ハ本規定ノ外總テ本専門部所定ノ規則ヲ

遵守スヘシ

第十一章 服 制

第五十三條 本専門部生徒ノ服制ヲ左ノ通定ム

一、制帽 地質 絨 黒色

角形ニシテ所定ノ帽章及顎紐ヲ附ス

二、制服 黒色ノセル地ニシテ所定ノ襟文字及ボタンヲ附ス

三、靴革 製ノ編上又ハ短靴トス

第五十四條 新入生ハ其ノ四月末日迄前條ノ適用ヲ猶予ス但

シ制帽ハ必ズ之ヲ着用スヘシ

第五十五條 教練ノ際ハ別ニ定ムル所ノ教練服ヲ着用スヘシ

第十二章 外国人特別入学

第五十六條 外国人ニシテ本専門部ニ入学セントスル者アル

トキハ明治三十四年文部省令第十五号ノ定ムル所ニ依リ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外国公館ノ紹介アル者ニ限り

特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第五十七條 外国人生徒ニハ本学附属業學専門部生徒ニ關ス

ル規定ヲ準用ス

附 則

第五十八條 本規則ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十九條 第三條及第四條ノ改正規定ハ昭和十年四月一日

ヨリ之ヲ施行ス

第六十條 本改正規定施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學スル

生徒ニ課スヘキ學科目及教授時數ニ關シテハ仍従前ノ規定

ニ依リ又ハ本改正規定ヲ斟酌スルコトヲ得

第六十一條 第六條第二十七條第二十九條ノ改正規定ハ昭和

十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十二條 第三十五條第三十六條ノ改正規定ハ昭和十三年

度卒業成績ヨリ之ヲ適用ス

四月一日、元県立長崎病院に係る敷地建物及び器具機

械その他一切の設備を長崎県より國に寄附し、これを本

校に交付された。そこで同日より本校附属醫院と改稱し、

一般診療に従事した。又、同日、本校教授清水由隆は附

属醫院長を命ぜられた。

同月十五日、勅令第二百四号を以て、文部省直轄学校

職員定員令中、書記の項を改正された。

四月十八日、高等学校理科学卒業生六名及び本大学における入学選抜試験に合格した十二名に対し、第一次入学を許可し、又、同月二十七日、医学専門部在学生にして、入学選抜試験に合格した十名に対し、第二次入学を許可した。そして、第一学年の授業は、同月二十三日より開始したが、同月二十八日には第一回宣誓式を挙行したのである。

五月一日、鎌田文部大臣は本学を視察した。同月九日、文部属山本董は本学事務官に任ぜられた。同月十五日、本学研究科一名の入学を許可した。

六月二十六日、本学々則中、第三章及び第六章中を改正した。同月二十九日、普通試験委員及び文官普通懲戒委員会を置いた。

八月八日、附属医院助産婦及び看護婦養成所規則を改正した。同月二十九日、勅令第三百九十一号を以て、官立大学教官の俸給に関し、高等官々等俸給令中を改正され、同日、勅令第三百九十二号を以て、官立大学教官の職務俸に関する制が公布された。

十月、解剖学教室の一部増築及び医化学教室の改築が竣工した。